

【(4) 授業の展開】

②－１「活動に変化を持たせている」

《つまずきの背景》

M 自己コントロールの困難さ、N 注意の持続の困難さ

《解説》

子どもが一つの活動に集中できる時間は限られています。一つの活動が長くなると子どもの集中力が途切れ、学習の効果も上がりにくくなります。そこで、1時間の授業の中に聞く、作業する、発表するなどの様々な活動を取り入れ、活動に変化を持たせることで、集中力を持続させることができます。

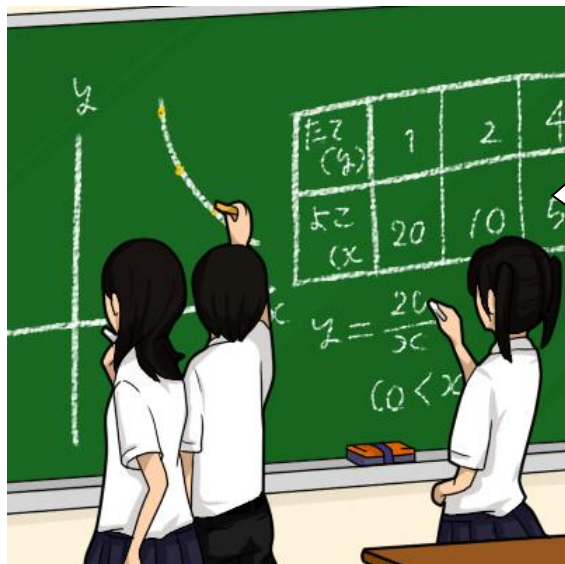
学級の中に、行動や欲求をうまくコントロールできない子どもや、注意の持続が困難な子どもがいる場合には、活動の変化を持たせ、短い時間でテンポよく切り替えることで、その都度集中力を取り戻したり高めたりすることができます。

変化を持たせるときの留意点としては、「問題を黒板に書き、子どもが前に出て解く」「文章題は立って読む」「隣の人と書いたものを見せ合う」など、あくまでも学習に関連した動きを取り入れることが大切です。

【工夫点】

- ・一つの授業に、読む、書く、話す、操作する、考える等の活動が入るようにする。(小中高 工夫例 30)
- ・子どもの集中時間を把握し、その時間に合わせて活動を区切る。(小中高)

◆工夫例 30 「一つの授業に、読む、書く、話す、操作する、考える等の活動が入るようにする」



《小・中・高等学校》

1時間の授業の中に2～3回程度は意識的に動く場面を作るなどして活動に変化を持たせることで、子どもの集中力を持続させることができます。国語では、音読は立って読む、1回読んだら座る、ノートを取る際には、問題をノートに書いて、できた人は先生の所に持ってくるなどの活動が考えられます。算数では、文章題は立って読むようにする、教師が問題を黒板に書いて子どもが前に出てきて解くようにする、書いたものを隣の人と見せ合うなどの活動が考えられます。できれば、1時間、ずっと座ったままの授業は避けたいものです。